



# YAMAHA YP-D9

DIRECT DRIVE TURNTABLE WITH QUARTZ PLL SPEED CONTROL

## 取扱説明書



## ●ごあいさつ

このたびは、ヤマハステレオレコードプレーヤーYP-D9をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

YP-D9は、ダイレクトドライブモーターの心臓部ともいえるサーボ回路にクォーツPLL（水晶発振器を内蔵した位相制御方式）を採用し、モーターの回転精度を極限にまで追求して音楽をリアルに再生するシステムとしての完成度を高めております。

また、高感度トーンアーム、重量級ターンテーブルや共振を抑えたキャビネットなどにヤマハの持つプレーヤー技術を結集させました。

ご使用の前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、末永くご愛用くださいますようお願いいたします。

## ●目次

特長	2
ご使用になる前に／次のことにご注意ください	3
プレーヤー各部の名称・組み立て	4
トーンアームの調整	6
アンプへの接続	7
キューイングレバーの使い方	8
レコード演奏のしかた	8
故障と思われるときには	9
規格	10
ブロックダイヤグラム	10
サービスのご依頼について	11

## ●特長

レコード音溝に刻まれた信号のみを忠実に送り出す、この基本的なプレーヤーの条件を満しきったのが、お手許のYP-D9です。

### 1. 高感度ジンバルサポートトーンアーム

水平方向、垂直方向の動作を各々2個所で支持するジンバルサポート方式を採用し、しなやかな極細リード線、ピボットインシュレーターダンパなどと相まって、水平・垂直の初動感度は共に3mg以下です。

さらに、アームベースとアームスタンドの合計重量が1.0kgもある重量級トーンアーム支持部分と、アルミニウム合金ダイキャストヘッドシェルによって、トーンアームを共振から守り、大きいハウリングマージンを得ています。

### 2. ヤマハ独自のPLL・ICを採用したクォーツ発振フェイズロックコントロール

YP-D9のモーターの回転速度は、発振周波数が極めて高精度な水晶による基準周波数発振器を採用し、ヤマハ独自開発のPLL・ICと相まってPLLサーボによってコントロールされるため、温度ドリフト、時間ドリフト、経時変化がなく、回転数精度±20ppm(±0.002%)で、回転数のズレを無視できるため、従来のストロボは不必要になりました。

### 3. 重量級ターンテーブルとストロングモーター

重量2.6kg、慣性質量360kg・cm<sup>2</sup>、直径315mmのターンテーブル部は起動トルク1.2kg・cmという、

ストロング12極24スロットDCホールモーターでダイレクトドライブされています。

### 4. 高密度パーティクルボートの重量級キャビネット

音質に重大な影響を与えるキャビネットは、特殊高密度パーティクルボードでつくられ、カートリッジの針先の動きを、外部のさまざまな振動から守っています。

### 5. その他

金メッキされた出力用ピンプラグ、24VDC1.0Aの大容量電源、重量級アクリルカバーなどクオリティの高い音を送り出すために徹底的に吟味された内容のYP-D9です。

## ご使用になる前に／次のことにご注意ください

### ■設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ①直射日光の当たる場所や暖房器具のそばなど極端に暑いところ
- ②温度の特に低いところ
- ③湿気やホコリの多い場所

### ■ベンジン・シンナー類は大敵

キャビネットをベンジン・シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、すぐそばでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。ベンジンやシンナー類がつくと、キャビネットが汚れたり変色したりします。

お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

### ■取扱いはていねいに

物をぶつけたり、落したりの乱暴な取扱いは部品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。ていねいにお取扱ってください。

### ■振動のない静かな所を

振動の多い場所やスピーカーシステムの近くには置かないでください。台もしっかりしたものを選んでください。

### ■古いレコード針は使わない

針先の寿命は使用するレコードの状態によって異なりますが、ダイヤ針で200～300時間使用したら交換してください。針先が摩滅すると音が歪んだり、ピリついたりして、レコードを傷める原因になります。

### ■アンプから離して

接続するオーディオアンプと並べて設置する場合には、アンプの電源トランス側と本機のトーンアーム部をできるだけ離して設置してください。

### ■水平に保つこと

プレーヤーの水平が保たれてい 않으면、回転速度やトーンアームの動きに悪影響を与えます。必ず水平に設置してご使用ください。

### ■電源電圧はAC100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。※本機は、国内電源AC100V50/60Hzでお使いください。この電圧以外でのご使用は保証いたしません。

### ■保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。

### ■保管してください

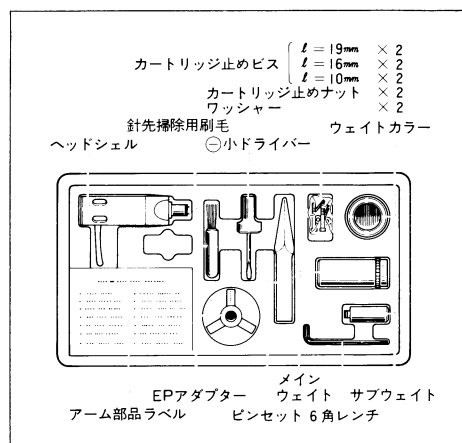
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

# YP-D9

## プレーヤー各部の名称・組み立て

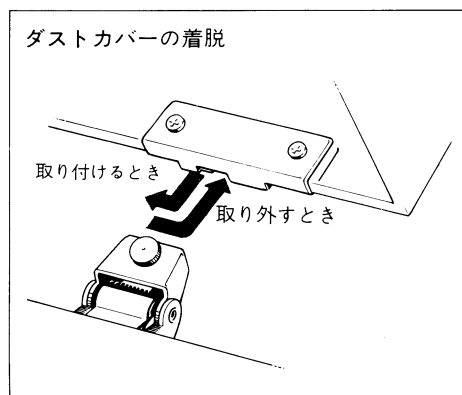
### ● プレーヤー各部の名称と機能

#### ■ 付属品

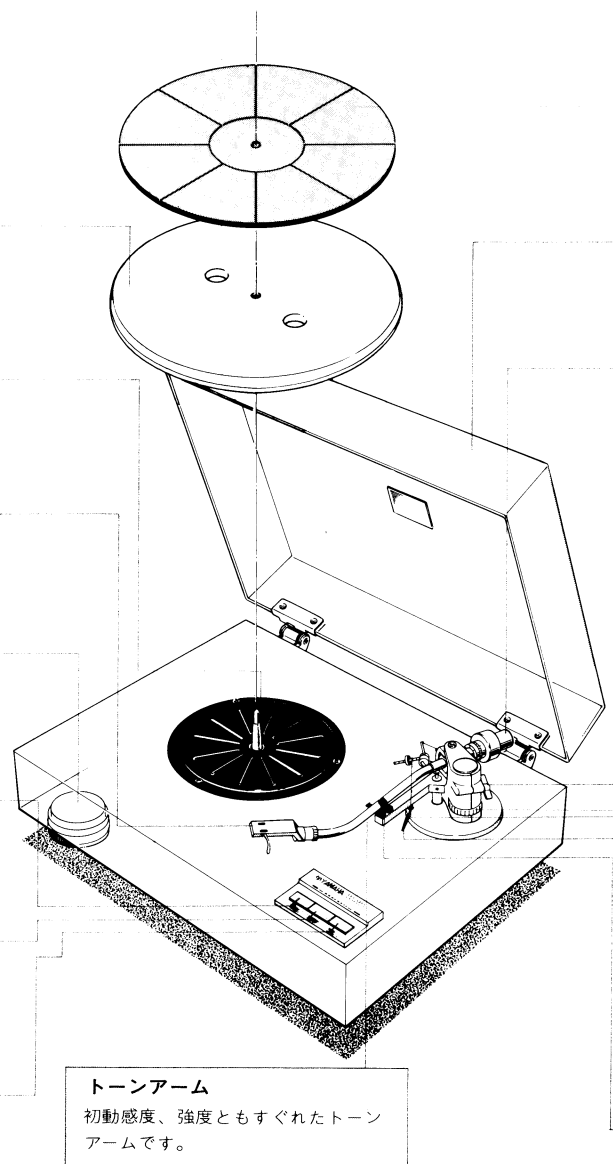


#### ■ ダストカバーについて

ダストカバーは着脱可能です。下図のようにキャビネット側のヒンジの突起と、ダストカバー側の金具の溝を合わせて押し込み、少し左にずらして取り付けます。取り外す場合は逆に行なってください。



- ターンテーブル**  
センターシャフトに静かに差し込んでください。この上にゴムシートを乗せます。
- センターシャフト**  
12極24スロットDCホールモーターの回転を、ターンテーブルに伝える重要な部分です。
- ヘッドシェル**  
アルミニウム合金ダイキャスト製で接続部分はすべて金メッキがほどこされ申し分ない物理特性と、極めて低い接触抵抗を持っています。
- インシュレーター**  
2重ダンパー式で、高さ調節可能な大型のインシュレーターです。
- 45回転用スイッチ**  
このスイッチを押すとターンテーブルが回転を始め、回転数が正確に45r.p.m.になったとき、上のインジケーターが点灯します。
- STOP スイッチ**  
ターンテーブルの回転を止めるとき、このスイッチを押します。
- 33回転用スイッチ**  
このスイッチを押すとターンテーブルが回転を始め、回転数が正確に33-1/3 r.p.m.になったとき、上のインジケーターが点灯します。



- ゴムシート**  
ターンテーブルの鳴りを静め、同時にレコードの共振を防ぎます。
- ダストカバー**  
着脱可能なダストカバーです。トーンアームの組み立ての際には、カバーを取り外した方が楽にできます。
- メインウェイト**  
トーンアームのバランスと、針圧を決定します。
- ロックネジ**  
トーンアームをタイトロック方式で、アームスタンドに固定するためのものです。
- アームアジャスターリング**  
トーンアームの高さを調整するものです。ロックネジをゆるめてから、調整します。
- インサイドフォースキャンセラー**  
カウンターウェイト方式を採用しています。トーンアームのバランス調整の際、バイアスレバー(7ページ参照)を上あげてインサイドフォースキャンセラーが働かないようにしますと、トーンアームが外側にながれず、より正確にバランス調整を行なうことができます。
- キューイングレバー**  
なめらかに針先をレコード面から上げ下げさせるオイルダンプ方式です。
- アームレスト**  
アームロックつきのアームレストです。

**トーンアーム**  
初動感度、強度ともすぐれたトーンアームです。

《パッケージから各パーツを取り出して、本文中の各部の組み立ての項を参考にしながら、上図に示すようにセットしてください。》

## ● プレーヤー、カートリッジ、トーンアームの組み立て

### ① ターンテーブルの取り付け

ターンテーブルを取り出し、センターシャフトに静かに差し込んでください。

ターンテーブルの2つの穴に指を入れて持ちますと安定します。そのあと、ターンテーブルにゴムシートを乗せてください。

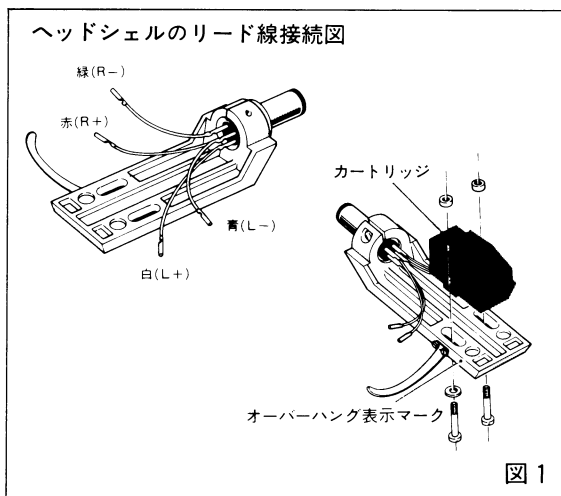
### ② カートリッジの取り付け

YP-D9のヘッドシェルには自重3g~16gまでのカートリッジが取り付けられます。

#### ヘッドシェルへの取り付け

ヘッドシェルにカートリッジを取り付ける場合は、ヘッドシェルのリード線をカートリッジの各ピンに間違えないように正しく接続してください。(図1)

なお、オーバーハングは図2に表示されているように、ヘッドシェルのオーバーハング表示マークに針先を合わせますとオーバーハングは16mmとなります。



#### オーバーハング

YP-D9のヘッドシェルを用いる場合には、フィンガーフックの手前にオーバーハング表示マークが記してありますので、カートリッジの針先が側面から見てマークの真下にくるようにカートリッジを取り付けてください。オーバーハング寸法が大幅にずれていると、歪が増えることがあります。

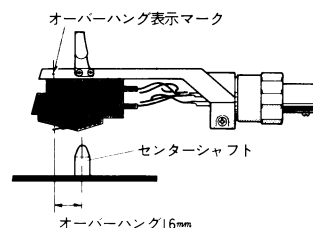


図2  
(針先とセンターシャフトとアーム支点が一直線になるようにして測る。)

付属以外のヘッドシェルをご使用の場合は下図のようにカートリッジ針先の位置を16mmにセットしてください。

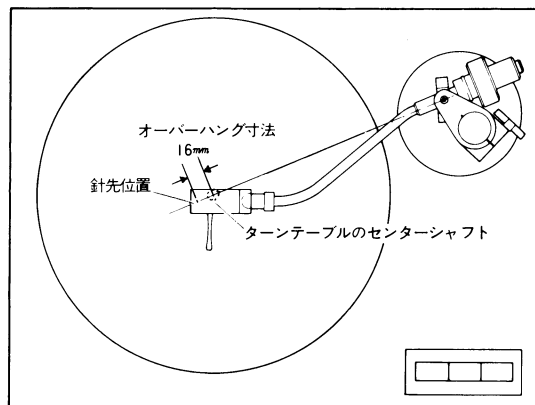


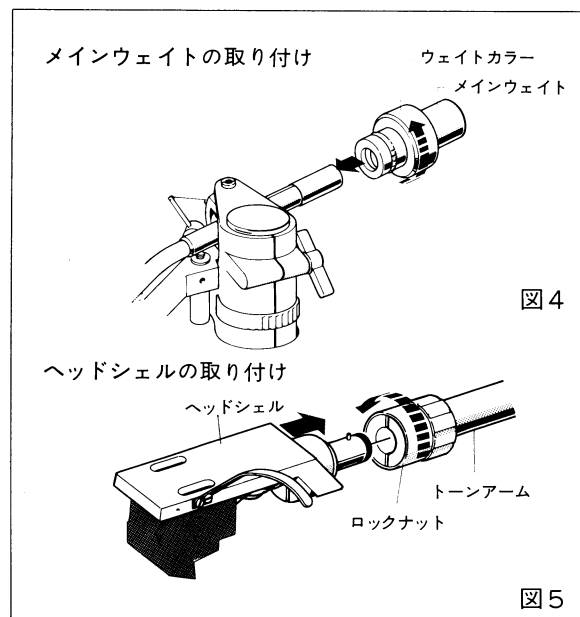
図3

### ③ トーンアームの組み立て

1. 付属品の中からメインウェイトを取り出し、ウェイトカラーをメインウェイトのほぼ中央に差し込んでから矢印の方向に回しながらトーンアーム尾部に押し込みます。(図4)

メインウェイト内部のラセン溝とアーム尾部のクリックストッパーがかみ合い、ウェイトはアーム正面から見て反時計方向(左)に回すと前へ、時計方向(右)に回すと後へスムーズに移動するようになります。

2. カートリッジ付のヘッドシェルをシェルの突起ピンを上にしてアーム先端のロックナット部へ差し込み、ロックナットを回して固定します。(図5)



トーンアームの調整は、下に示した順序で行なってください。

1. バランス調整

2. 針圧調整

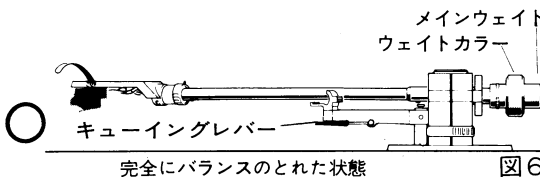
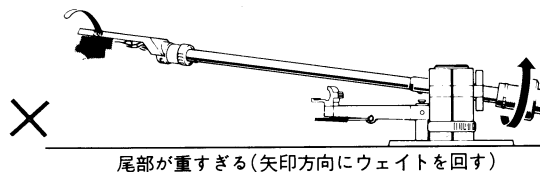
3. インサイドフォース  
キャンセラーの調整

4. 高さ調整

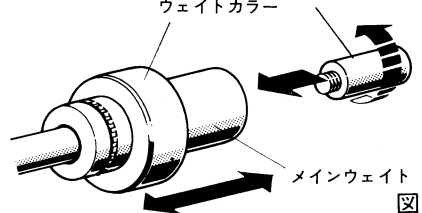
### 1 トーンアームの高さ調整

- キューイングレバーを下げたまま、針カバーが付属されているカートリッジは、カートリッジの針カバーを下げ、取りはずしのできる針カバーは、カバーをはずしてください。次に、トーンアームをアームレストから引き出します。
- ヘッドシェルフィンガーから軽く指をはなしてトーンアームの水平バランスを調べます。ヘッドシェル側が重ければ頭部が下がります。
- トーンアームが完全に水平になるように図6を参考にしてメインウェイトを前後させ調整します。メインウェイトはゆっくり回すようにしてください。
- バランスがとれましたら、トーンアームをアームレストに戻します。
- メインウェイトでバランスがとれない場合には、ウェイトカラーを前後に動かしてもう一度バランス調整をおこなってください。(図7)
- カートリッジの重量が重くバランスがとれない場合は、付属のサブウェイトをつけ、もう一度バランス調整をおこなってください。最大16gまでのカートリッジを取り付けることができます。

バランス調整



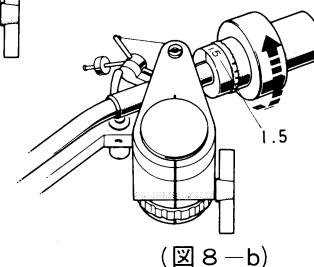
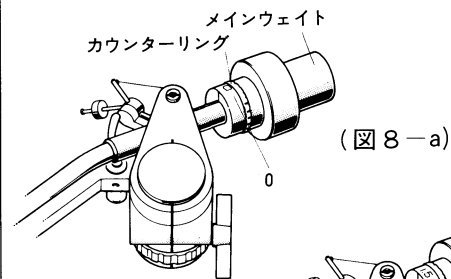
サブウェイトの取り付け



### 2 針圧調整

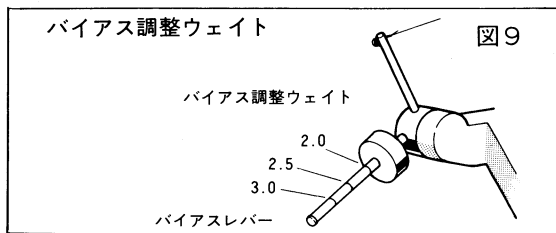
- 水平バランスがとれた時のメインウェイトの位置を動かさないようにして、メインウェイト前部のカウンターリングだけを回し、カウンターリングの数字“0”をトーンアームの黒ラインに合わせてください。(図8-a)
- メインウェイト本体を回しますとカウンターリングも一緒に動きますので、メインウェイトを図8-bの矢印方向にゆっくり回し、適正針圧の値をトーンアームの黒ラインに合わせてください。カートリッジの適正針圧がかりに1.5gならカウンターリングの数字“1.5”をトーンアームの黒ラインに合わせてください。

針圧の調整



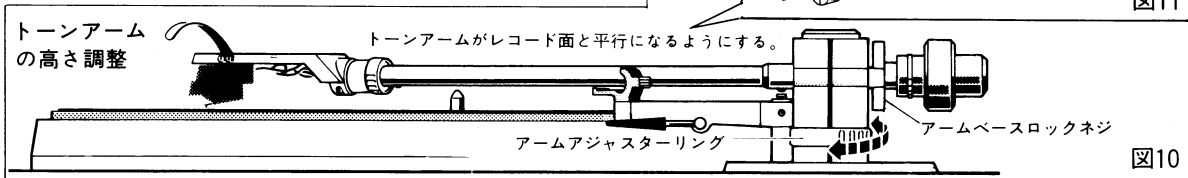
### ③ インサイドフォースキャンセラーの調整 (バイアス調整)

バイアス調整ウェイトの位置は針圧によって決まります。バイアス調整ウェイトを動かしてみるとバイアスレバーに刻まれた溝ごとに軽いクリックがあります。一番奥のクリックが1.0g、あとは0.5gステップで、一番手前のクリックが3.0gのときの位置です。カートリッジの適正針圧が仮りに1.5gなら、バイアス調整ウェイトは1.5gの位置にセットしてください。



### ④ トーンアームのバランス調整

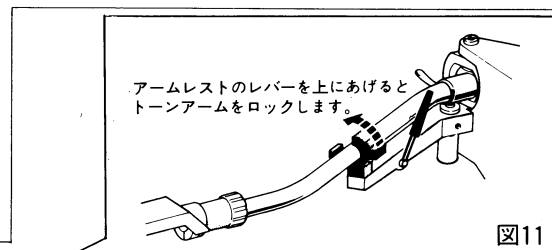
1. キューイングレバーを下げ、針カバーのあるカートリッジは針カバーを上げておきます。



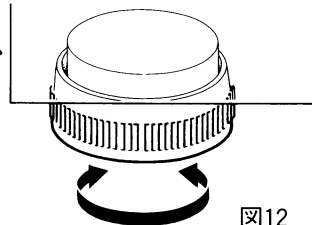
2. ターンテーブルにレコードを乗せ、針先をレコード面上に置いてみます。トーンアームがレコード面と平行になるよう軸受部のアームベースのロックネジをゆるめてから、アームアジャスターリングを左右に回してトーンアーム全体を上下に調整し、レコード面とトーンアームの平行がとれましたらアームベースのロックネジをしっかりと締めます。(図10)

※この調整をおこなうときには、針先とレコードを痛めないように慎重に操作してください。

3. トーンアームの高さ調整が終了したら、トーンアームをアームレストに戻してください。アームレストは図11のようにトーンアームをロックすることができます。



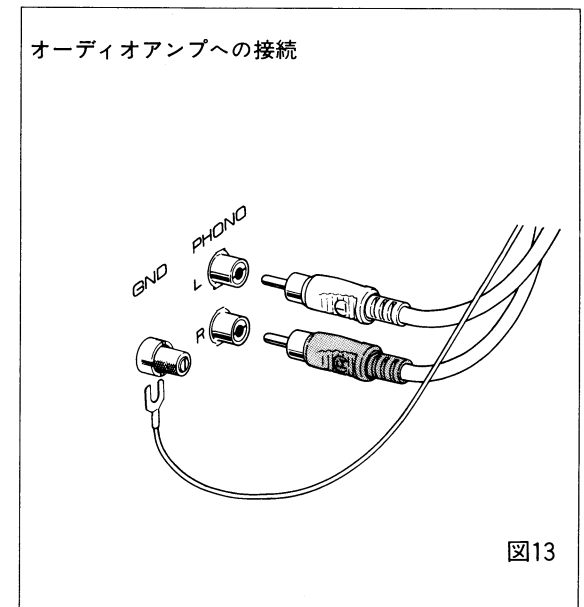
### 水平バランス



プレーヤーの組み立てが終了したら、本機を水平に保つよう調整してください。キャビネット底面の4隅に外部振動を吸収するインシュレーターを兼ねた足があり、高さ調整機構が組み込まれています。図15のように足を左右に回せば高さを調整できますので水準器などを用いてターンテーブル面が水平になるよう微調整してください。(図12)

### ● オーディオアンプへの接続

1. キャビネット背面から出ている出力コードを、オーディオアンプのPHONO端子に接続します。このとき、L・Rを間違えないようにしてください。白がL(左)チャンネル、赤がR(右)チャンネルです。
2. 出力コードから出ている黒のアース線を、オーディオアンプのGND端子に接続します。アンプによってはアース線を接続しない方がハム雑音に対してよい結果を得ることがありますので、ハム雑音の少ない方を選んでください。
3. プレーヤーの電源プラグをACコンセントかアンプの予備電源コンセントに接続します。



### ●キューイングレバーの使い方

キューイングレバーは、レコード面に針を降すときや針を上げるときに、直接ヘッドシェルに手を触れることなくトーンアームを昇降させることができるので、針やレコードを傷つけません。

#### ①針を降すとき

トーンアームの針先をレコード面の聴きたい位置に合わせてから、キューイングレバーを静かに下へさげてください。針先は油圧シリンダーによってゆつくりとレコード面へ降ります(図14)

#### ②針を上げるとき

レコードの演奏が終わった場合や、途中で演奏を止めたいときは、キューイングレバーを静かに上へあげてください。針先がレコード面から浮きあがりますので、トーンアームを手でアームレストに戻してください

キューイングレバーの使い方

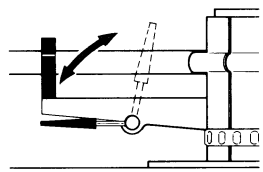


図14

カートリッジなどを交換して、アームリフターの高さを変えたい場合には、付属の六角レンチを使ってアームリフターが最適の位置となるように調整してください。

※出荷の際、調整されておりますので通常は調整の必要はありません。

アームリフターの高さ調整

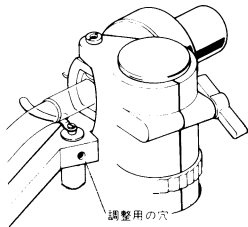


図15

### ●レコード演奏の手順

プレーヤーの組み立てと調整が終わったら、次の順序でレコードを演奏してください。

**1** プレーヤー、アンプ、スピーカーの接続コードをチェックしてください。

- ◎電源コード → ACコンセント
- ◎出力コード → アンプのPHONO端子
- ◎アース線 → アンプのGND端子

それぞれ正しく接続されているか確認してください。

**2** 接続したアンプを動作状態にします。

アンプのFUNCTION(入力切換)スイッチを「PHONO」ポジションにセットします。

**3** キューイングレバーが上にあがっていることを確認してください。

**4** 演奏するレコードをターンテーブルに乗せます。

◎45回転EPレコードは、付属のEPアダプターをターンテーブルのセンターシャフトに差し込みます。

(33または45)を押すとターンテーブルが回り出し、クォーツロックがかかって正確な回転速度になると、上のインジケーターが点灯します。

**5** カートリッジの針先をレコードの演奏したい場所の上に持ってゆき、キューイングレバーを静かに下におろします。

**6** レコード演奏

(プリアンプなどで音量・音質を調整してお聴きください。)

**7** レコード演奏が終わったらキューイングレバーを静かに上へあげてください。

トーンアームが上へあがりますから、トーンアームをアームレストに戻してください。

**8** 電源OFFスイッチを押すと、ターンテーブルの回転が停止します。



## 故障と思われるときには

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、次の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは疑問の点がございましたら、お買上げ店又は日本楽器各支店のオーディオ技術係にサービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
スイッチを押してもターンテーブルが回らない カートリッジを交換した時など(ゼロ)バランスがとれない	電源コードがACコンセントにしっかり差し込まれていない カートリッジが重いか、または軽すぎる。	ACコンセントにしっかり差し込み直してください。 メインウェイトを前後にずらして再調整してください。 ウェイトカラーを前後にずらして再調整してください。 サブウェイトを差し込むか取り外して再調整してください。
トーンアームが降りない 針先をレコード面に降ろしても音が出ない	キューイングレバーがあがったままになっている シェルコネクターの接触不良 アンプのファンクションがPHONOになっていない アンプのボリュームが絞られている プレーヤーの出力コードの接続不良	キューイングレバーの使い方の項を参照し正しく操作してください。 コネクタのピンをみがいてみてください。 ファンクションを正しくPHONOに合わせてください。 ボリュームを適切な位置まであげてください。 アンプ、リアパネルの接続端子を確認してください。
カートリッジの腹がレコード面に接触する。	針圧が重すぎる トーンアームの高さが不適當	適正針圧に再調整してください。 トーンアームの高さを正しく調整してください。
再生音が歪んでいて聴きにくい、または「チリ、チリ、バチ、バチ」という音がし、特に高音域がひずんで汚ない	プレーヤーが水平でなく傾いている 針先にホコリなどが付着している 針先が摩耗している レコード自体が痛んでいたり、ホコリやゴミがついている 針先が軽すぎるか重すぎる アンプの高音をあげすぎている	インシュレーターの高さを調整して水平に設置してください。 針先を付属の針先掃除用刷毛などできれいにしてください。 針先を交換してください。 レコードを新しいものと交換してください。 使用カートリッジの適正針圧に調整し直してください。 高音をFLATポジションに戻してみてください。

# YP-09

## 規格・ブロックダイアグラム

### ●規格

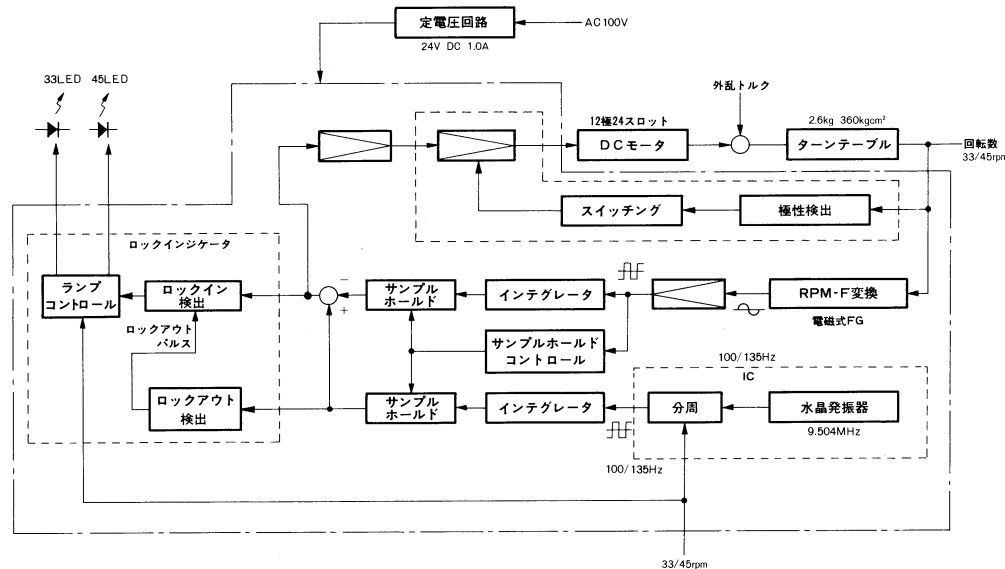
■フォノモーター部	
駆動方式	ダイレクトドライブ
モーター	12極24スロットDCホールモーター
モーター電源	24VDC1.0A定電圧電源
サーボ形式	クォーツPLL
クォーツ発振周波数	9.504MHz
ターンテーブル	31.5cmアルミダイキャスト2.6kg 慣性質量360kg・cm <sup>2</sup> (ターンテーブルシート共)
ワウ・フラッター	0.03%WRMS以下
SN比	62dB以上(JIS)
回転数精度	±20PPM以下
耐負荷特性	400g・cm以下では回転数変化なし
時間ドリフト	0%
温度ドリフト	-10℃~60℃まで変化させたととき±20PPM以下
スイッチ方式	プッシュロックタイプ

■トーンアーム部	
型式	S字型スタティックバランス、ジンバルサポートアーム
トーンアーム全長	320mm
トーンアーム有効長	232mm
オーバーハング寸法	16mm
オフセット角	22° 20'
トラッキングエラー	-1° +2.6°
インサイドフォースキャンセラー	カウンターウェイト方式
初動感度	垂直3mg, 水平3mg
アームエレベーション範囲	±3mm
アームリフター	オイルダンプキューイング
アームスタンドベース	亜鉛ダイキャスト
ヘッドシェル	アルミニウム合金ダイキャスト
カートリッジ適用範囲	3~16g
出力コード	低DCR, 低損失型, NEGLEXコード 金メッキピンプラグ付

■キャビネット部	
外装	高密度針葉樹系パーティクルボード ソロモンウォール柱目塩ビ化粧
ダストカバー	アクリル製クリアー
ヒンジ	フリーストップ着脱可能
インシュレーター	高さ調整可能2段式大型インシュレーター
■総合	
定格電源電圧	AC100V
定格電源周波数	50Hz/60Hz
定格消費電力	5W
外形寸法	W×H×D 470×158×378mm
総重量	15kg

《規格は性能向上のため予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください》

### ●ブロックダイアグラム



●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器店オーディオ技術係へお願いいたします。

■プレーヤーの保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

### ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中“故障と思われるときには…”の項をお読みになってください。意外と故障ではない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

### ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(ステレオの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないときにお客さまにご迷惑をおかけしなですみます。)

### ■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右下欄のオーディオ技術係又は裏表紙の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。)

### ■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

### ■サービスのお約束

昼間ご不在がちのお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願いいたします。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

### ■各支店住所 (オーディオ技術係)

東京支店・〒101	東京都千代田区外神田3-10-12 TEL (03)255-2241
横浜支店・〒231	横浜市中区本町6-61-1 TEL (045)212-3111
千葉支店・〒280	千葉市千葉港2-1(千葉コミュニティセンター内) TEL (0472)47-6611
関東支店・〒370	高崎市歌川町8番地(高崎センター内) TEL (0273)27-3366
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
神戸支店・〒650	神戸市葺合区浜辺通り6丁目1の36 TEL (078)232-1111
四国支店・〒760	高松市西宝町2丁目6-44 TEL (0878)33-2233
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸支店・〒921	金沢市泉本町7-7 TEL (0762)43-6111
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151
北海道支店・〒064	札幌市中央区南十条1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台支店・〒980	仙台市一番町2-6-5 TEL (0222)27-8511
広島支店・〒731-01	広島市祇園町西原862 TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市幸3丁目5-8 TEL (0534)74-0311

## 日本楽器製造株式会社

- 本社・工場 〒430・浜松市中沢町10-1  
TEL・0534(65)1111
- 東京支店 〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内  
TEL・03(572)3111
- 銀座店 〒104・東京都中央区銀座7-9-14  
TEL・03(572)3131
- 渋谷店 〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7  
TEL・03(463)4221
- 池袋店 〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2  
TEL・03(981)5271
- 横浜支店 〒231・横浜市中区本町6-61-1  
TEL・045(212)3111
- 千葉支店 〒280・千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内  
TEL・0472(47)6611
- 関東支店 〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内  
TEL・0273(27)3366
- 大阪支店 〒564・吹田市新芦屋下1-16  
TEL・06(877)5151
- 心斎橋店 〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39  
TEL・06(211)8331
- 神戸支店 〒651・神戸市葺合区浜辺通り6丁目1の36  
TEL・078(232)1111
- 四国支店 〒760・高松市西宝町2丁目6-44  
TEL・0878(33)2233
- 名古屋支店 〒460・名古屋市中区錦1-18-28  
TEL・052(201)5141
- 北陸支店 〒921・金沢市泉本町7-7  
TEL・0762(43)6111
- 九州支店 〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL・092(472)2151
- 福岡店 〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内  
TEL・092(721)7621
- 小倉店 〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1  
TEL・093(531)4331
- 北海道支店 〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター  
TEL・011(512)6111
- 仙台支店 〒980・仙台市1番町2-6-5  
TEL・0222(27)8511
- 広島支店 〒730・広島市紙屋町1-1-18  
TEL・0822(48)4511
- 浜松支店 〒430・浜松市鍛冶町122  
TEL・0534(54)4111
- 海外支店 ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・  
シンガポール・フィリピン